

亡くなった人の写真や遺族の思いなどを添えたパネルと向き合う生徒。宇陀市大宇陀迫間の県立大宇陀高校



大宇陀高で「生命のメッセージ展」

宇 陀

命の重さ、向き合って

犯罪や事故などで生命を奪われた犠牲者を通じて命の大切さを考える「生命のメッセージ展」が11、12の両日、宇陀市大宇陀迫間の県立大宇陀高校(堀田優子校長)で開かれ、全校生徒92人が参加した。

会場では、事故などで亡くなった30人の等身大の人形パネルを展示。パネルには、写真や亡くなった経緯、遺族の思いなどが添えられ、生徒たちは静かに向き合った。

また、平成12年に交通事故で長男の健仁さん(当時18)を無くし、交通事故防止などに取り組むNPO法人「KENTO」の児島早苗代表が「生命を越すものはない」と題して講演した。いずれも同校3年の植村奈央さん(17)は「大変なことがあっても頑張って生きていこうと思った」、豊田耕平さん(17)は「遺族の思いを読んで、当たり前前に過こしている毎日に幸せを感じた」とそれぞれ話した。